

## 第2学年 音楽科学習指導案

児童 2年A組 18名  
指導者 白岩 千尋  
逢坂 晃世

### 1 題材 曲想を生かして

#### 2 題材の目標

- (1) 曲想と拍子や速度、強弱、音色との関わりに気付くとともに、互いの音を聴いて3拍子の流れにのり、思いに合った表現をするために必要な演奏の技能を身に付ける。
- (2) 3拍子の流れを感じて、速度、強弱、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いをもって表現を工夫する。
- (3) 拍子や速度、強弱、音色の違いによる曲想の変化に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組む。

#### 3 題材について

##### (1) 児童の実態

本学級の児童は、感性が豊かで、日頃から音楽の要素を意識しながら曲を聴いたり、リズムに合わせて体を動かしながら歌を歌ったりする活動を楽しんでいる。

1学期には、「かっこう」の曲から情景をイメージし、2つのグループに分かれてイメージに合うように合奏する活動をした。思い浮かべた情景を友達と共有することで思いを膨らませたり、強弱や音色を工夫して演奏したりすることで、イメージに合った表現になることの面白さに気付くことができた。児童は、演奏の技能が身に付きつつあり、もっと工夫したいところを見つけながら自分たちの演奏を聴いて考える力も高まりつつある。

##### (2) 教材について

表現教材 「ウンパッパ」

前半は、1拍目に付点四分音符が繰り返され、3拍子の流れを意識付けられる楽曲である。また、後半の歌詞に出てくる「ウンパッパ」は、軽快な気分を上手に表現した言葉で、拍節感を捉えやすい。3拍子の流れにのって歌ったり身体表現をしたりしながら、曲想の変化に気付かせて音色や強弱を工夫し、レガートとノンレガートを歌い分ける楽しさを味わわせることをねらいとしている。

表現教材 「アンダルコの歌」

チェコ/スロバキアの民謡で、日本では「たぬきのたいこ」という歌詞でも親しまれている。「ソラシド」と連続する音階が3回含まれており、曲の盛り上がりを感じやすい曲である。3拍子の曲で、前半のなめらかな旋律と後半の明るく軽快な旋律で構成されており、表現の違いを感じるのに適した教材である。情景の変化をイメージして、その違いによる表現の工夫を楽しみながら演奏することをねらいとしている。

##### (3) 指導にあたって

本題材では、曲想に合った歌い方や演奏の仕方を考えて、情景をイメージしながら思いや意図をもって表現していく。体を動かしながら範奏を聞いたり、鍵盤ハーモニカの階名唱・運指唱をしたりすることで、演奏の落ち着いた感じや盛り上がっていく感じを捉え、3拍子の流れを感じることができるようにする。曲に合わせて体を動かしたり、イメージを膨らませるために話し合いを重ねたりして、それに合った演奏の工夫をしていく。強拍と弱拍を意識して拍節感をもち、グループで息の合った表現になるような活動を充実させていく。

本時は、「アンダルコの歌」からイメージを膨らませて、速度、強弱、音色を工夫して合奏する。導入に歌詞唱を取り入れることで、曲想を感じながら楽しく活動できる雰囲気づくりをする。活動の際には、演奏を録画して聴いてみることで、イメージに合う演奏ができている点やもっと工夫したい点に気付くことができるようにする。グループでの話し合いには、ICTを活用して演奏譜と照らし合わせながら聴いたり、自分の考えを話しやすいように話型を示したりする。イメージにより近い演奏ができるように、話し合いと演奏する活動を交互に組み合わせることで技能を高められるような環境設定をする。学習のまとめでは、感じたことと音楽の要素とを結びつけた振り返りができるようにして、12月の校内音楽会での演奏に向けて、さらに意欲を高めることができるようにしたい。曲想を生かした演奏の工夫をしながら、3拍子の流れを感じて友達と合奏することの心地よさを味わわせたい。

#### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 曲想と拍子や速度、強弱、音色との関わりに気付いている。(歌唱)</p> <p>②技 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、音色や強弱、速度に気を付けて、互いの音を聴いて3拍子の流れにのりながら鍵盤ハーモニカなどの楽器を演奏する技能を身に付けている。(器楽)</p>	<p>①思 3拍子の流れを感じて、速度、強弱、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。(器楽)</p>	<p>態① 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。(歌唱、器楽)</p>

#### 5 指導と評価の計画

次	時	教材	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準 ◆評価方法			要素
				知・技	思	態	
一 次	①	ウンパッパ	◎曲想にあった音色で3拍子の流れにのって歌う。 ○3拍子の流れにのって、互いの声を聴き合い、楽しみながら歌う。 ・4拍子の曲と聴き比べて違いやよさを感じ、のびのびと体を動かしながら聴く。 ・曲の構成や音楽の要素について気付いたことを発表する。 ・旋律の変化を感じ、音色などを工夫して歌う。	知 ① ◆◆ 演奏活動 聴観 取察		態 ① ◆◆ 演奏聴 取	拍子
	②		◎情景をイメージして表現を工夫し、思いをもって演奏する。 ○表現したい曲のイメージをつかむ。 ・曲を鑑賞し、気付いたことやイメージを伝え合う。 ・階名唱をし、指使いを確認する。				
一 次	③	アンダルトコ の歌	○イメージに合った表現の工夫を話し合う。 ・グループに分かれて楽器を選び、演奏する。 ・場面の様子を想像しながら、曲想に合った演奏の工夫を話し合う。				
	④ (本時)		○イメージを膨らませながら、工夫して演奏する。 ・音楽の要素を意識しながら演奏する。 ・イメージに近い演奏になっているかを考え、もっと工夫したいところを話し合う。 ・演奏を聴き合い、よいところを伝え合う。	技 ② ◆◆ 演奏聴 取	思 ① ◆◆◆ 発言動 演奏内 観聴 容察 取	態 ① ◆◆ 演奏聴 取 ワーク シート	
	⑤		○学年合同発表会を開き、学習のまとめをする。 ・音楽会に向けて、聴き手を意識した演奏をする。				

## 6 本時の学習

(1) 目標 3拍子の流れを感じて、イメージを膨らませながら速度、強弱、音色を工夫して演奏する。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	◇評価規準◆評価方法	要素
1 「アンダルコの歌」の歌詞唱をし、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3拍子の流れを意識した動きをつけて歌うように声かけをすることで、曲のイメージを感じられるようにする。</li> <li>○前時の演奏を振り返ることで、本時のめあてにつなげる。</li> </ul>		速度  強弱  音色
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     イメージをふくらませながら くふうしてえんそうしよう。                 </div>			
2 グループで合奏し、演奏の工夫を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○演奏を録画し、よかったところやもっと工夫したいところを共有できるような環境設定をする。</li> <li>○話し合いの進め方や話型を提示し、自分の思いや考えを簡潔に伝えることができるようにする。</li> </ul>	◇思① ◆活動観察	
3 演奏を聴き合い、感じたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イメージや演奏譜を掲示することで、思いや意図に沿った演奏ができているかを感じながら聴くことができるようにする。</li> <li>○発言内容と音楽の要素とを結びつけて理解することができるように、板書を工夫する。</li> </ul>		
4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○曲想を捉えて演奏することで、演奏の心地よさを感じられるような声かけをし、次時への意欲付けをする。</li> </ul>		

(3) 評価および指導（手立て）

「十分満足できる」と判断される具体的な状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3拍子の流れを感じて体を動かしたり、鍵盤ハーモニカやその他の楽器の速さや強弱、音色を工夫したりして表現している。</li> </ul>
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージに近づくことができるように、歌詞唱や階名唱をしてみるように助言する。</li> <li>・一定の速度を保ちながら演奏できるように、手拍子を打つ。</li> <li>・演奏の工夫が表現できている児童を手本にして、少人数で合奏してみるように助言する。</li> </ul>